

研究可能テーマ

研究可能テーマ	研究指導者	受け入れ可能院生数
<p>(1) 厚労省レセプトビッグデータを用いた疫学研究 厚労省はのべ7億件にのぼるレセプトデータを、適切なプロポーザルの審査を経て開示している。これには年齢性別、診断名、医療行為などのデータが含まれる。同一患者をひも付けして経時的に調査することも可能である。変形性膝関節症に対する保存療法の違いによる、5年後に関節置換術をうける割合の違い、半月板切除の5年後の転機、年齢の影響、都市部と農村部での治療傾向の違いなどを明らかにする。</p>	岡崎教授	1～2
<p>(2) 細胞シートを用いた軟骨再生 先端生命医科学研究所、東海大学医学部整形外科との共同研究により、成人軟骨組織および幼児の軟骨組織から細胞培養した軟骨細胞で、細胞シートを作成し成熟家兎、羊で実験的に変形性膝関節症を作成したモデルに細胞シートを貼りつけ軟骨再生を検討する。その際サイトカインの産生が軟骨再生を左右するため、その抑制因子も投与する実験系も施行する。細胞シートを利用した軟骨再生は、様々な軟骨再生の方法の中で最も臨床応用に近い方法である。</p>	岡崎教授	1～2
<p>(3) 代謝性骨疾患への骨組織形態計測自動化システムへの応用 1) 実験：各種代謝性骨疾患の実験モデルを作成し、採取脛骨、腸骨を加藤が開発した骨組織形態計測自動化システムにより解析する。 2) 臨床：代謝性骨疾患患者の骨生検腸骨を加藤が開発した骨組織形態計測自動化システムにより解析し、画像診断・各種骨代謝マーカーと比較、検討、分類する。</p>	和田(圭)講師	1～2
<p>(4) 透析骨症における骨組織形態計測、各種骨代謝マーカーによる分析 1) 実験：腎不全モデル動物を作成し、採取した脛骨、腸骨を骨組織形態計測により解析する。また採取した血液dataのCa代謝因子、骨代謝マーカーを測定し組織形態と代謝マーカーとの相関性を検討する。腎不全モデルは腎臓3/4摘出、アデニン投与モデルを作成、使用し比較、検討する。</p>	和田(圭)講師	1～2
<p>(5) 変形性膝関節症に対する各種手術療法のアウトカムの多施設共同比較研究 変形性膝関節症に対しては、人工関節置換術と骨切り術が行われており、両術式の選択基準は、変形の程度や患者の年齢、活動性などによってなされるが、実際には両者がオーバーラップした適応も多数存在する。多施設でUMINサーバーを用いて患者のデモグラフィックデータと、術前・術後のスコアを共通の尺度で前向きに登録し、Propensity score matching法にて疑似RCT試験を行って、アウトカムの違いを明らかにする。</p>	岡崎教授	1～2
<p>(6) 膝前十字靭帯断裂モデルの作成と各種人工靭帯の適用 ラット、家兎、羊の各動物において膝前十字靭帯断裂モデルを作成を作成し、生体の再建靭帯、各種人工靭帯を移植し、その強度実験、組織顎堤検討よりそれぞれの有効性を検討する。本実験はTWINSの岩崎教授との共同研究でありとくにdenude ligamenntを中心とした研究となる。本靭帯は、急性期から慢性期までの靭帯再建術の中で最も臨床応用が期待される。</p>	岡崎教授	1～2